

2017年(平成29年)

2月3日

金曜日

# 朝日新聞

## 整形外科に興味他流試合

太田秀樹 ④

麻酔科医として充実した毎日を送っていたが、患者さんとのつながりは、手術の時だけである。プレラウンド(手術前回診)として手術の前にあいさつを兼ねて診察に行くのだが、手術を終えると存在は薄くなってしまふ。外科医たちが困難な手

術に成功し、達成感と共に誇らしげな表情に包まれている姿を見ると、テレビドラマではないが、メスを持つ華やかさに憧れるようになっていた。

外科、婦人科、泌尿器科などさまざま領域の手術の麻酔を担当しているなかで、整形外科に興味がわいた。そこで、母校の整形外科の門をたたいた。ところが、「君は麻酔科医として臨床経験はあるが、整形外科は1年生として勉強しなさい」と、教授から厳しい言葉を投げかけられた。僕も若かったのである。それはおかしいと生意気にも反論した。すると、君のよろに元気な医者は他流試合に臨んでみよと、自治医大の整形外科を紹介された。

自治医大には、僕のような他大学を卒業した医師がレジデント(研修医)として、全国から集まっていた。ちょうど中途採用試験に間に合い、ジュニアではなく、シニアレジデントとして自治医大に勤務できることになった。給料をもらえるのは、当時としては画期的だったがとても忙しかった。

朝7時から症例検討会。9時から手術。手術を終えて夕方から病棟回診。その後、論文執筆や学会発表の準備など帰宅が午前0時を過ぎることも多かった。週末を病棟で過ごすこともしばしばだった。(次回10日)

### とちぎの風

人生支える在宅医療



おたか・ひでき 1953年、奈良市生まれ。自治医大大学院修了。92年「おやま城北クリニック」開業。現在は医療法人アスムス理事長として在宅医療を推進。